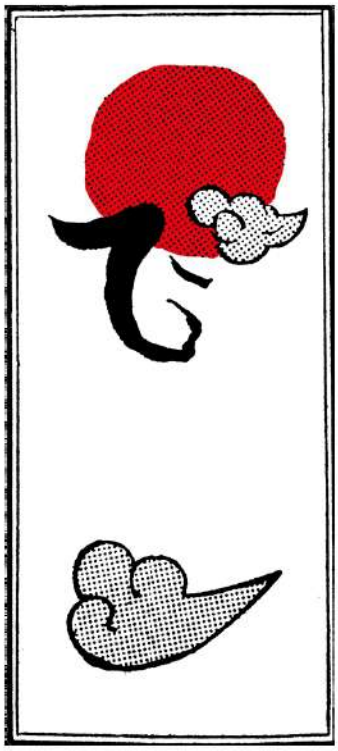

第12號
月1回發行
ひの心を繼ぐ會
〒799-1336
住所:愛媛縣西條市
上市甲720-1

領綱

一　私達は明徳を明らかにします
一　私達は國家の鎮護となります
一　私達は大和世界を建設します

神道（五）（大和世界の建設）

古事記

北と一　―北極紫微宮―

竹葉　秀雄

本居宣長先生、平田篤胤先生始め幕末の神道家、更に本田親德先生、宮地水位先生、堀天竜齋先生、及び沖楠五郎先生を先達として、山口に天行居の神域を開かれた友淸歡眞先生は次の樣に述べてゐられる。

幽界は縱にも横にも見方によつて八通りに分れて居るので、それが更に數百千にも分れて居りますので、大體神名木車の圖が暗示を表はして居ります通りのものであります。（これは後に、竹葉が數靈の世界に於て明かにする考へです。）これは私共だけの考へでなく、實地に正確に神界に出入された處の先輩達の祕められた處の記錄と合致する處なのであります。先づ此の宇宙の根本神界と申しますのは、私共の方で天津眞北の高天原と申して居りまする。平田篤胤先生邊りが頻りに言つて居られる處の北極紫微宮であります。無論北極紫微宮といふ樣な文字は支那傳來のものでありますけれども、其の思想は我國から起つて來て居るのであります。―中略―支那にも印度にも亦ヨーロッパ方面にも神界の消息は―部分的に傳流して居るのであります。―殊に支那は日本國に近く比較的正確な傳があると申すのは伏義と云ふのは實は大國主神樣の奇魂、幸魂であるからであります。伏義から神農、黃帝といふ風になつて居りまして比較的に神界の消息が洩れて居るのでありますが、世が下つて周の起る以前ごろから正傳の神仙道は現界的に殆んど亡びて了つたと云つてもよろしいほどに衰微し、やがて儒學が興るに及びまして、此の神仙の古道といふものは異端邪說であるかの如くに見られるに至つたのであります。又、少彦名神も太古に於て支那方面でも大いに努力せられたので其の系統の神々によつて開拓されたる神界の消息も正確に或る人々の間に傳へられて居るのであります。……」

として、此の北極紫微宮に天御中主神始め宇宙の大神樣がお鎭まりになつて居られると述べ、

次に太陽神界があります。私共の方で天津日の高天原と稱んで居る處でありまして、茲にも無論天照大御神樣が御中心で尙ほこれに隨屬せる種々の高貴なる神々がお鎭まりになつて居るのみならず人間界より出でたる方々で其處に勤めて居られる方もあるのであります。……

と述べてゐられる。尙つづいて、神仙界方面から呼び來つて居る「神集嶽」は石城島の神の都で、それを現界的に認識せしむるために太古以來の神界の經論で描き出されんとしてゐるのが山口縣田布施町の石城山に於ける天行居であるとしてゐられるのであるが、今ここで、私の取り上げ注意したいのは、天之御中主神始め宇宙の神神のお鎭まりになつてゐられると言ふ、北極紫微宮であり、その紫微宮が北極にあり、天津眞北の高天原と稱へられてゐることである。

（以下次號）

第一章　農の哲學的考察
～第三節　農本生活　第二項　本末關係～

菅原　兵治

心と形

古人も「誠ならざれば物無し―中庸―」といつてゐるが、心が本で形が末であることは、恰度如何なる建築でも先づ建築設計者の心によつて其の形態が次第に現れて來ると同樣で格別の說明は要せぬことであらう。（唯物主義的見地に立つ人々は物が本で、心は末であるといふであらうが、其等に對する議論は此處ではせぬことゝする。）故に本の原理に立つ農本生活に於ては、單に形の美醜よりも、其の中に含まるゝ心を重んぜねばならず、又、自然さういふ風に出來てゐるものである。

試みに歲末に搗く餅にしても然うである。其の餅米も、餡の材料の小豆も、雜煮の中の野菜も、皆家族が入念して作つたものである。そしてそれを料理するのも、家內中心を合せてする仕事である。從つて同じく餅の料理でも都會の人々が賃餅屋に賴んで、一升何十錢の金で購つたものとは違つて一つ々々に皆作つた人、料理した人の生きた「心」が籠つてゐる。同じ一杯の餅を食ふにしても、田植から收穫までの間のお互の苦樂の追憶までを喫し得るのである。かくて農村の料理は單なる物の咀嚼ではなくして、實に物と與に「心」の玩味である。一本の澤庵漬を食ふにしてもさうで、この大根は伜が學校を出て今年始めて作つたもので、それを女房が喜びながら娘を相手に漬けたものだと思へば、少々味は惡くも嬉しく食へるものである。地織の着物は或は都會の商店から買つた人絹交りの物に比べては一見體裁がよくないかもしれぬけれども、うちのお祖母さんが績いだ太糸で、母親が織つて呉れた着物だといふ處にまた「物」以上の「心」の籠つた尊さがあるのである。衣服の自給といふことも、單に經濟的利害の見地のみより論ぜず、かういふ方面より深く考へねばならぬことゝ思ふ。

かくの如く農村の生活は其の衣食住すべてを通じて、單に物の體裁の美醜や、調度の便否といふ點に於ては都會の生活に遠く及ばないであらうけれども、其の一つ〳〵には皆「心」が籠つてゐる、――從つて同じ物でも其れに意義があり、趣きがあり、感激があるといふ點に於て別箇の生活價値が存するものである。それを從來農村生活に於てかゝる點に氣付かず唯物の世界に於て物の標準によつて都市生活のそれと比較し、徒らに商工都市的物件の羅列を以て農村文化の向上と速斷し、安價なるコンクリート摸造建築と、殺風景な十錢食堂的共同炊事場の設置と、而して都會の葬儀屋に依賴してやる葬式の如き簡易化とを以て農村生活の改善と狂喜するやうなことは、實に農村生活に此の尊き精神的要素の存在することを忘れたものではあるまいか。

一體農村の生活は物質的享樂といふ點から見て――殊に人工的のそれに於ては都會の生活に比して甚しく劣つて居るものである。隨つて其の中の生活に安立を得ようとするならば、どうしても其の不便にして素樸なる物質的生活の中に豐かなる趣きを掬し得るに足る精神的素養が必要である。此の事は古來山中の草蘆に孤坐せし禪僧などの生活を見るも、溪聲を長廣舌と聽き山色を淸淨身と觀る底の精神的素養が如何に其の寂寞の生活に堪へ拔かしめたかを見ても明かであらう。かくて私共は農村の農本生活には精神的敎養が大いに必要であることに氣付かねばならぬ。換言すれば都會は物質的生活の享樂に惠まれた處、農村は精神的生活の愉樂に惠まれた處といふも過言ではないであらう。人或は近來の經濟的不如意を見て農民の精神的敎養などいふことは痴人の迂言と嗤ふかも知れぬが、然し物質的生活に於て不如意なれば不如意なるほど、それほど深き精神的敎養がなければ、その不足に堪へ、それを切拔け得る力が生ずるものではない。兎に角農本生活に精神的素養の必要なるはこれらによつて知り得るであらう。

禊について

三浦　夏南

荒谷卓先生の主宰されるむすびの里を訪れて以來、先生の勸めから『今泉定助先生研究全集』、『川面凡兒全集』を拜讀してゐる。兩先生の力說されるもの、それは禊の實修であり、神道の眞髓は禊によつて如實に體驗され、體得されるといふ。求道の究極が、禊といふ傳統的な行に終始するといふ兩先生の教へに深く思ひ感ずるところがあつた。

『川面凡兒全集』の中の一節で特に興味を覺えた川面翁の教育批判がある。それは要言すると、「現代の教育（明治以後の教育）では大楠公の偉大さを讃へ、大楠公の如き人物になることを學生達に强く要請するが、如何にして大楠公となるのか、或は大楠公に匹敵する至誠は如何にして引き出され得るのかといふことが明確でない。これでは如何に大志を抱く學徒とは言へ、途方に暮れてしまふこともやむを得ない。大切なのは其處に至る具體的な道程を明らかに示すことである。」といふ鋭い批判である。日本の本質は萬邦無比であり、限りなく尊いものであることには萬人疑ひはないが、これが如何にして現代に顯現されて來るかの具體的方策となれば、多くの人が首を傾げることになる。國體の體現者である幕末志士の人格と事業には皆讃美の拍手を送るが、志士達を動かした精神を具體的に引き出す方法となると別問題である。言ふは易く、行ふは難いといふことは、畢竟學問の肝腎の部分が明確になつてゐないからである。

シナの儒學について此の點を考へてみると、求道の要點を示した『大學』には治國平天下の大業も己一身の修身に基くと記されてゐる。それでは身は如何にして治めるかと言ふに一身の根本は心にあり、心を正す事が重要である。その心を正すには內奧の意を誠にせねばならず、誠意の要點は格物致知にあると說かれる。この格物致知が曖昧であり、觀念的であると感じてしまふ。どうしても學問と實踐の二途であり、精神と肉體の乖離を覺える。靈肉一致の具體的な何かに一步屆かない。佛教の座禪にしても、その他宗教の行に於ても、大同小異であり、何より日本傳統の作法でないので、我々日本人の身には馴染まない。此の物足りなさを諸書を讀むごとに感ずるのである。然しながらそれも外國の教學に於ては仕方のないことかもしれない。神人合一の神話が去今來を通して生きる日本でなければ、精神と物質、理想と現實の一體化する行が生きて傳はる筈がない。問題は我々日本人が物心の乖離した學問に囚はれて、道より遠ざかり、世界に求道の眞の在り方を示すことが出來ないことである。

この學問の核心に單刀直入に結論を提示されたのが、兩先生の禊行の復活であると思ふ。この禊によつて國體が今ここに體驗され、國體の眞髓が自らの生命力として溢れだすのである。我々が望むことは、理想の國家を上古の世界に憧憬することでもなく、未來に國體論通りの理想鄕を描くことでもない。大楠公や、幕末の先哲と同じ惟神の力を今ここに把握し、現實の世界を修理固成することである。そしてその方法は單なる精神論でも、常識的努力でもあり得ず、上古以來の惟神の神事でなければならないのである。それを現代に知る事が出來る、これほど有難いことは無いと思ふ。今その人に必要なものが與へられるといふことはよく言はれるが、私にとつて兩先生の著書はその與へられるべきものであつた。

關連して思へば、我々が農業に取り組むことも同じである。傳統的な農の仕事を通して初めて日本人の心が體驗される。日本人にとつて、傳統的な行を通さない精神は空想に過ぎないのである。敬神の念は祭りの作法を通して體現されるし、武士道も言ふまでもなく、劍や杖を振るところから生まれる。全てが物心一如の惟神の在り方である。「國體論を背景とした實踐」や、「武士道精神を軸とした行動」といふものに『大學』の格物致知と同じ物足りなさを感ずる理由もここにあるのではないか。やはり我々は生活そのものを日本化しなければならない。生活を西洋化したまま置き去りにした精神論では決して道に入ることは出來ないのである。

『今泉定助先生研究全集』を讀了し、『川面凡兒全集を』拜讀してゐる最中であるが、益々讀み進めつつ、川面翁の行を受け繼ぐ稜威會にて早く禊行を習いたいと切望してゐる。先生が著書の中で說かれる深淵な哲學も全て現實

に體驗されるものであると至る處で言及されてゐる。實際に身を以て體驗しなければ分らない世界。その世界をこの目で確かめたいと思ふ。

とよくも農園だより

三浦　杏奈

寒い冬を通り越して、とよくも農園の畑にも春の訪れを感じてゐます。冬の寒さに耐へた甘い大根やキャベツは役目を終へてトウ立ちし菜の花を咲かせ、休眠していた草も暖かい日差しに目を覺まし、日に日にその勢ひを增してゐます。

今月は、先月までに片づけ、肥料を入れて耕した畑に、様々な野菜の定植を行ひました。まづは、ジャガイモです。去年は手で一つ一つ植ゑていきましたが、今年は移植機を購入し、二人一組で植ゑていくと、スムーズに植ゑられました。この移植機は、ジャガイモのみならず、里芋やポット苗の定植にも使用できるので、今後活躍しさうです。さらに、一反分のケールの定植も行ひました。これも、セルトレー苗の定植がスムーズにできる「なかよしくん」といふ簡單な機械を使つて一日で約二千の苗を植ゑきりました。

近年はお米を辭めて野菜作りを始めるお年寄りの方が多いやうで、重勞働となる過程は、身體への負擔を輕減するために様々な機械が開發されてゐるやうです。現在の農業事情を考へると、農業の機械化は仕事の效率を上げるために農家にとつて必須のものとなつてゐます。確かにある程度の面積を管理していかうと思ふと、機械の力を借りなくては成り立ちません。本來農業の價値は、お日様や大地や野菜の中に流れる生命との一體感を育むことや、人智を越えた天地自然のお力への畏敬の念を培ふことにあります。しかし、農業の機械化は效率が上がる半面、目の前の仕事を終はらすことに夢中になり、農業を極端に「作業」的なものの見方へと變へて行く性質を藏してゐると思ひます。この點を常に自分の中で確かめながら、自己の內面を農業によつて磨きながらも、實際の畑の形も機械を上手く使用し、成長させていきたいと

思つてゐます。

今月も殘すところあと少しですが、お花見やタケノコ掘りなどこれから來る春の行事を、家族みんなで樂しめたら良いなと話してゐるところです。四月の末には樣々な夏野菜の定植も始まります。また忙しい日々が續きますが、農業二年目、家族で協力して良いスタートを切りたいと思ひます。

『土居清良』感想集

愛媛縣教育委員會教育長　井上正

先般は竹葉先生の著書をお送りいただき、ありがたうございました。大變恐縮して居ります。

株式會社愛媛銀行　中山　紘治郎

この度は書籍『戦国　伊予の聖雄　土居清良』、『機関紙　「ひ」創刊号』をご恵贈賜り、誠にありがたうございました。お氣遣いに心から感謝いたします。

金原　徹

今回は竹葉先生の『土居清良』を送つてゐただきありがたうございました。少し難しい内容でしたが、がんばつて目を通しました。それ以上に改めて竹葉、近藤兩先生の功績に感動させていただきました、復刊にご盡力された方々に敬意とお禮を申し上げます。

★活動報告

・三月十二日（火）勉强會『農士道』を開催。
・二月二十六日（火）勉强會『大學』を開催。

★今後の豫定

・四月九日（火）十九時～二十一時　『農士道』
松山市男女共同參畫推進センター☆コムズ三階會議室一―二
（住所：愛媛縣松山市三番町六丁目四―二〇）

・四月二十三日（火）十九時～二十一時　『大學』
松山市男女共同參畫推進センター☆コムズ三階會議室一―二
（住所：愛媛縣松山市三番町六丁目四―二〇）

★一燈照隅　萬燈照國

ひの心を繼ぐ會は竹葉秀雄・近藤美佐子兩先生の精神を繼承し、發展させることを目的として生まれた會です。一人の「ひ」の精神が周圍の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが國を照らす「ひ」になることを願ひ、活動を行つてをります。皆樣には何卒ご理解とご支援を賜りますやう、宜しくお願ひ申し上げます。

年會費

・一般會員　三千圓
・贊助會員　一萬圓
・特別贊助會員　三萬圓
・支援會員　一萬圓